

トピック ― ピーマンの需給動向 ―

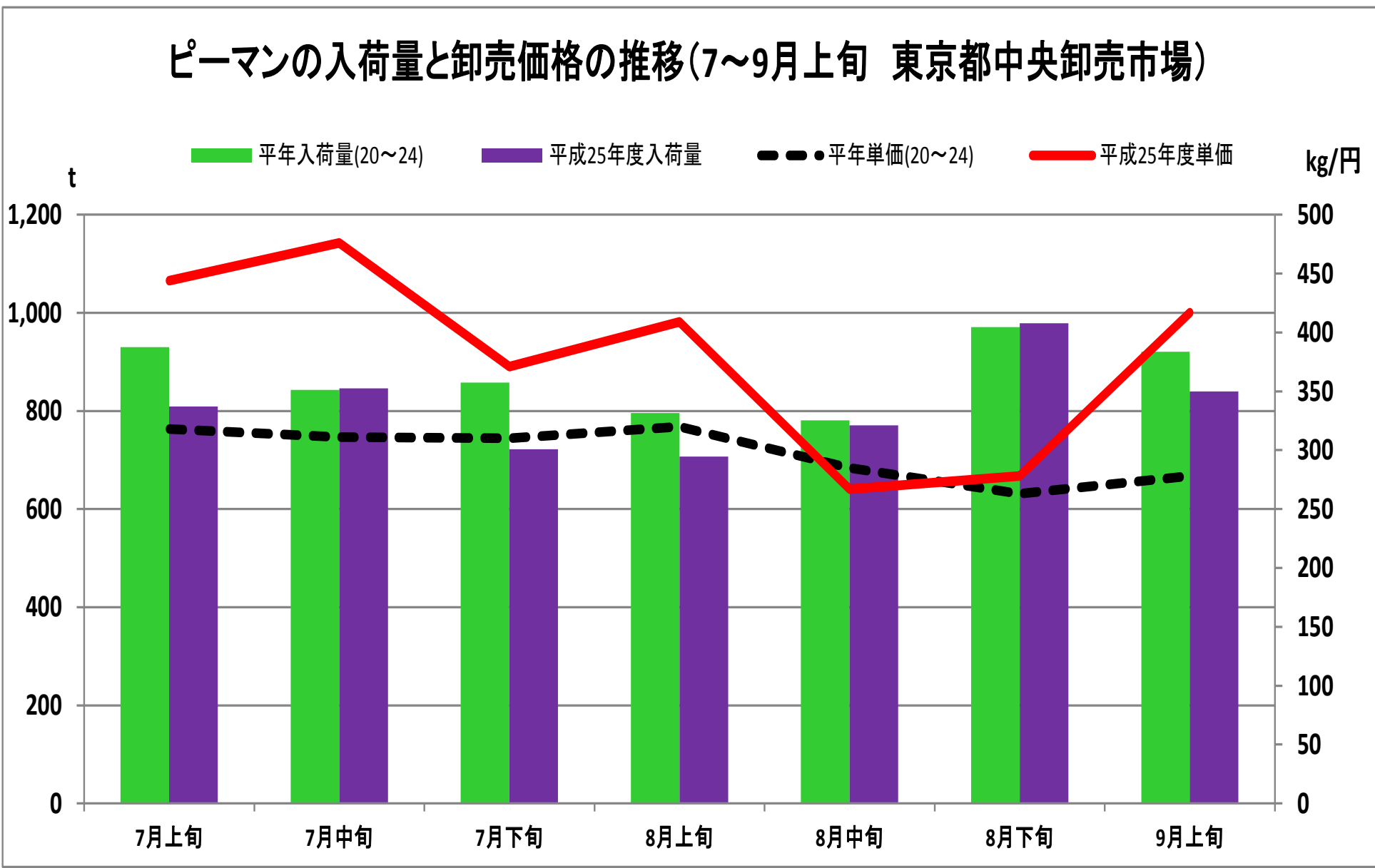
今年の7月からのピーマン（パプリカ等を含む。）の入荷量は、7月上旬から8月上旬までは平年より少なめに推移し、8月中下旬は入荷量が回復傾向となって、平年並みとなったが、9月上旬は少なめとなった。このため、価格は7月から8月上旬までは高く、8月中下旬は平年並みとなったものの、9月上旬は高く、直近10年では、この時期の最高値となっている。

このように総じて入荷量が平年に比べて減少したのは、6月に主産地の茨城等で日照量が少なかったことや、7月から8月上旬にかけて、主産地の岩手で日照量が少なかったことによるものと思われる。なお、9月上旬の減少は、上述のように主産地の岩手で日照量が少なかったことの影響で、この時期の出荷のものに花落ちがみられたこと等によると思われる。

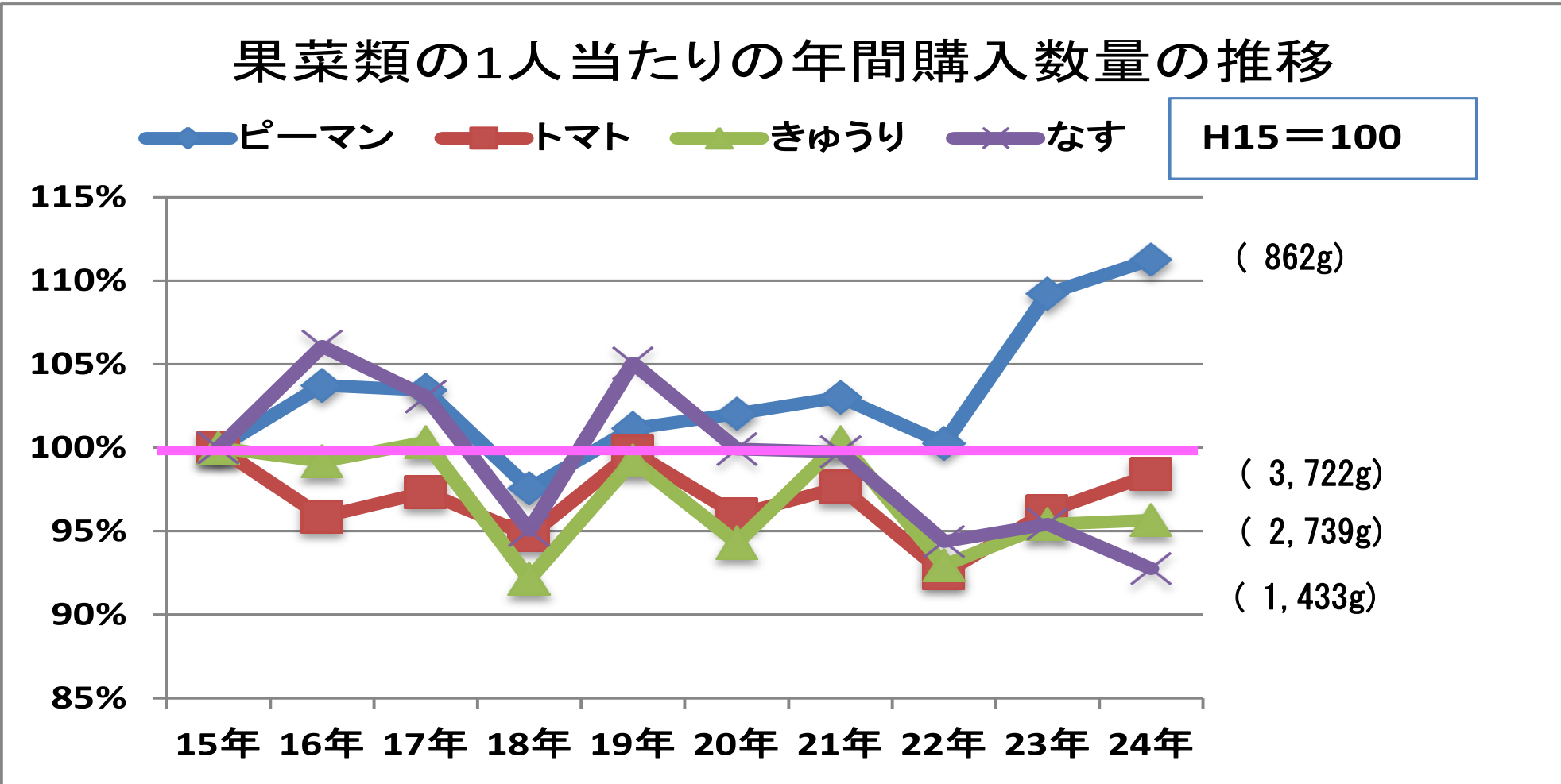
今後は、茨城産は順調な生育であるものの、本格的な出荷は下旬以降となり、岩手産等は引き続き少なめに推移することから、価格は当面高めに推移するものと思われる。

ピーマンは、今が旬の時期であり、和洋中の様々な料理に合い、食卓の彩りとして欠かせない野菜でもあるが、ピーマンの年間の購入数量を見ると、指定野菜の果菜類の中では最も購入数量が少ないものの、直近10年間では増加傾向となっている。

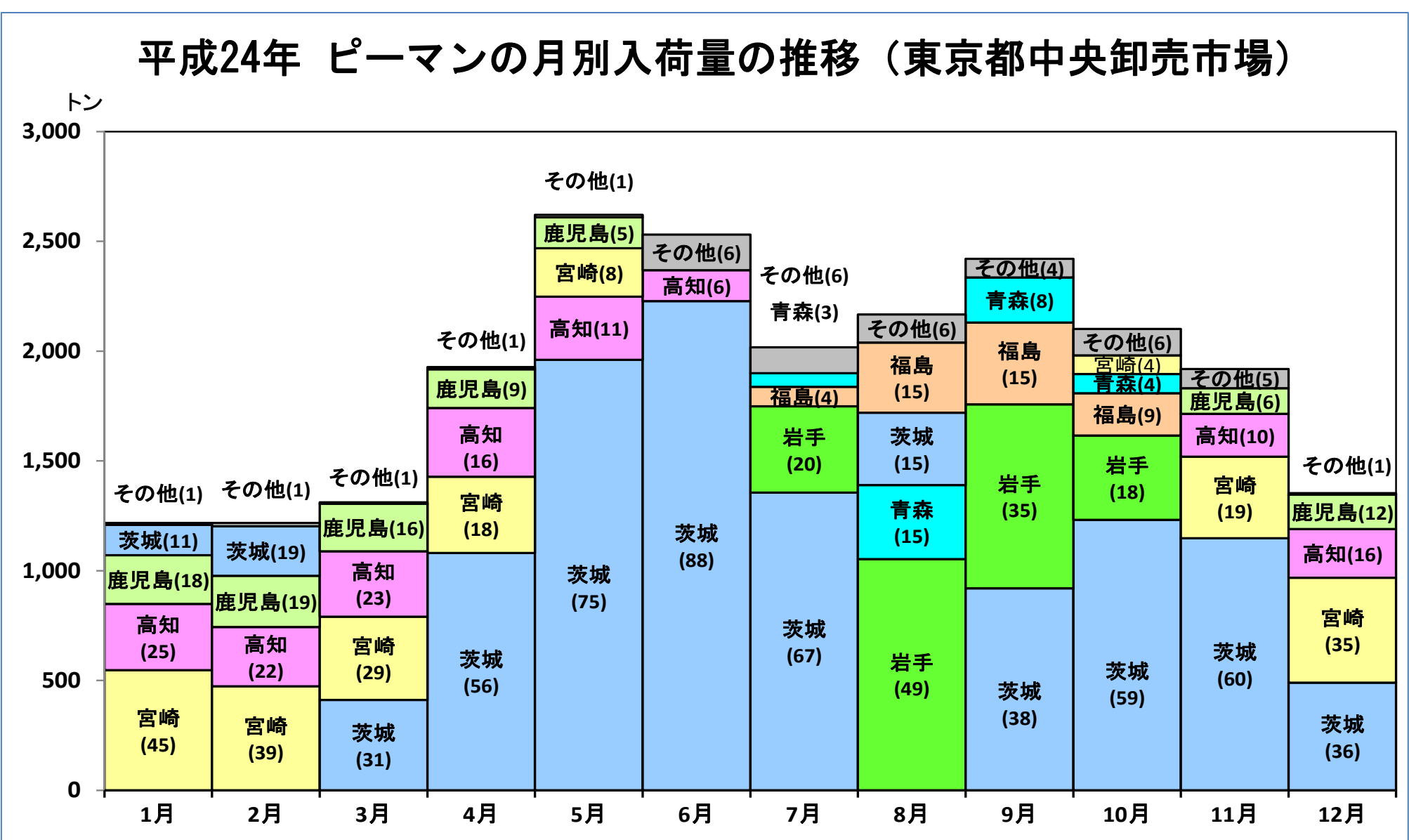
一方、国内供給量の推移を見ると、国内の出荷量はこのところ横ばい傾向であるものの、パプリカ等のジャンボピーマンの輸入量は増加傾向にあり、国内生産量も拡大傾向にある。ピーマンの購入数量の増加傾向には、パプリカ等の需要増が寄与していることが考えられる。



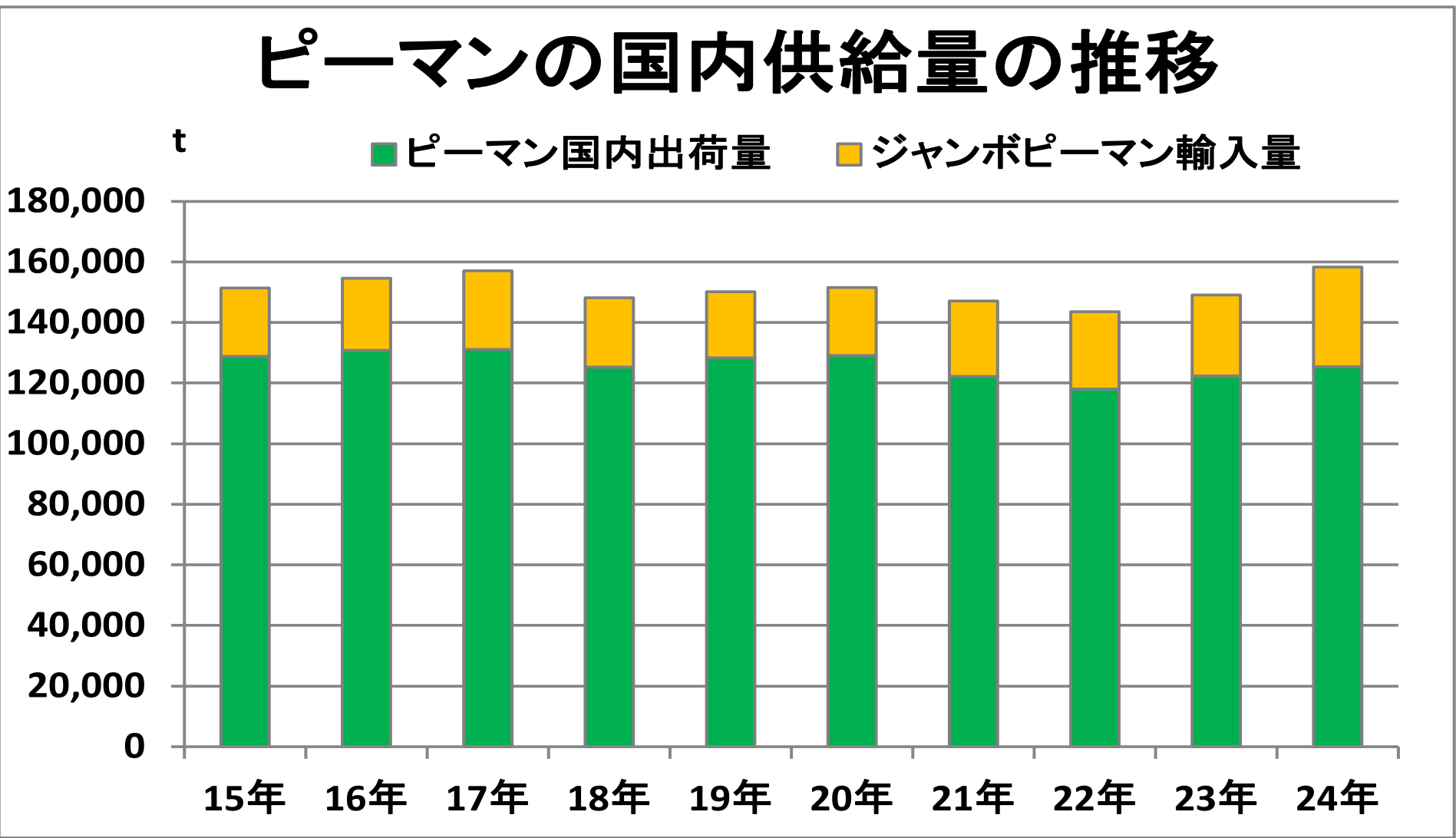
資料：青果物情報センター



資料：総務省統計局「家計調査年報」
注：（）内は、平成24年の1人当たりの購入数量



資料：平成24年東京都中央卸売市場年報



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」、ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。